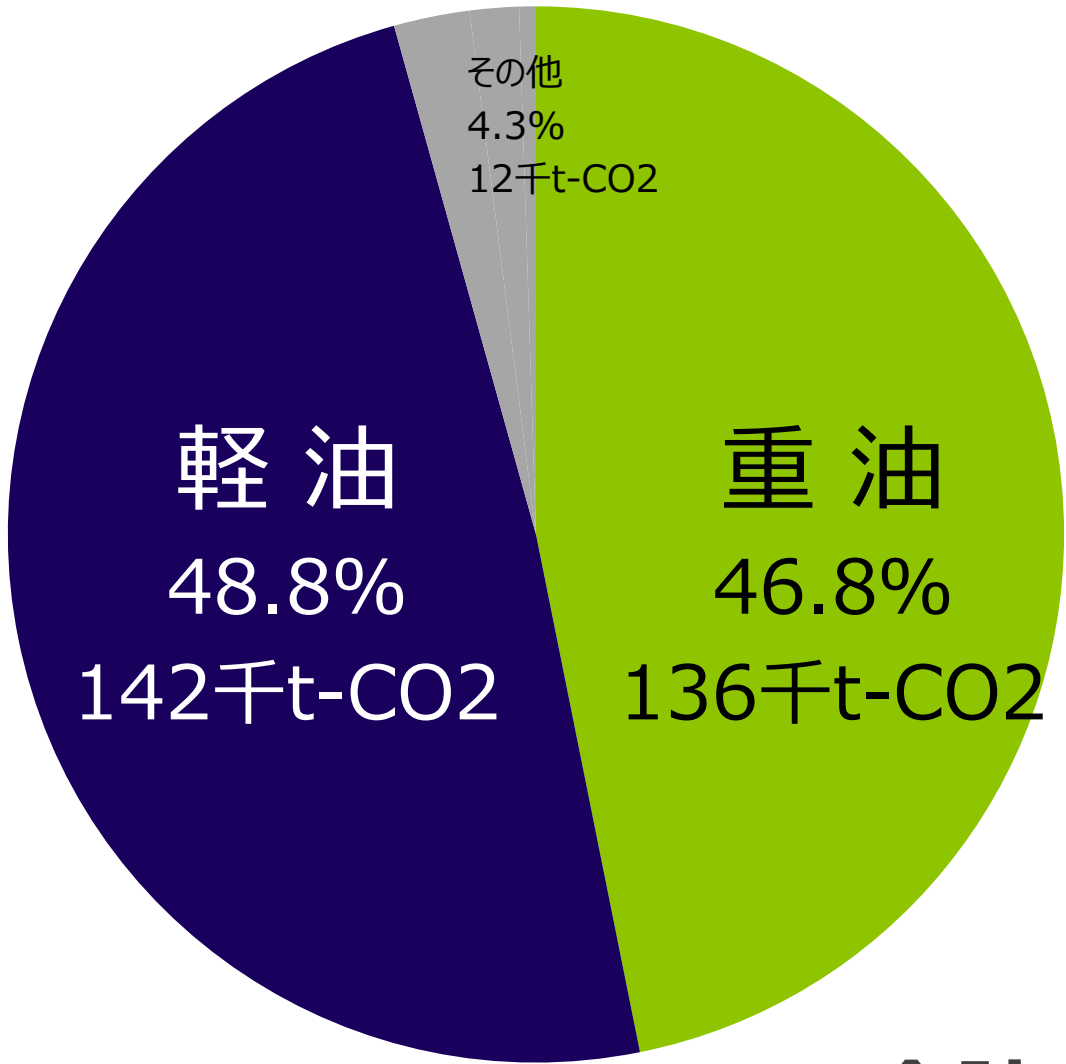


当社取組と基準活動量について

NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社
サステナビリティ推進部
次長 撰 幸昌

日本通運の直接排出量と排出源別割合（2024年）



合計 291千t-CO2

日本通運の取り組み事例

環境配慮車両の導入推進

車種	台数	構成比
クリーンディーゼル車	10,294	79.1
ハイブリッド車	2,572	19.8
CNG/LPG車	54	0.4
電気自動車	73	0.6
水素燃料電池車	21	0.2
合計	13,014	

(2024年12月現在、一部子会社含む)



2023年に初導入した
水素燃料電池トラック

エコドライブの推進

IoT技術の活用と独自の教育訓練によって燃料消費率の改善によるCO2排出量の削減に取り組んでいます

デジタル式運行記録計の機能活用

- 日々の乗務後に集計・出力される帳票により、デジタコの有する機能を用いた安全運転評価のほか、経済運転評価＝エコドライブの評価を実施

安全エコドライブ講習

- 技能系従業員を対象に毎年実施している各種安全運転研修の中で、エコドライブ運転に関するカリキュラムを設け、プロドライバーとして安全運転と環境に配慮した運転を実践を指導
- 2024年度の同研修の受講者数は556名

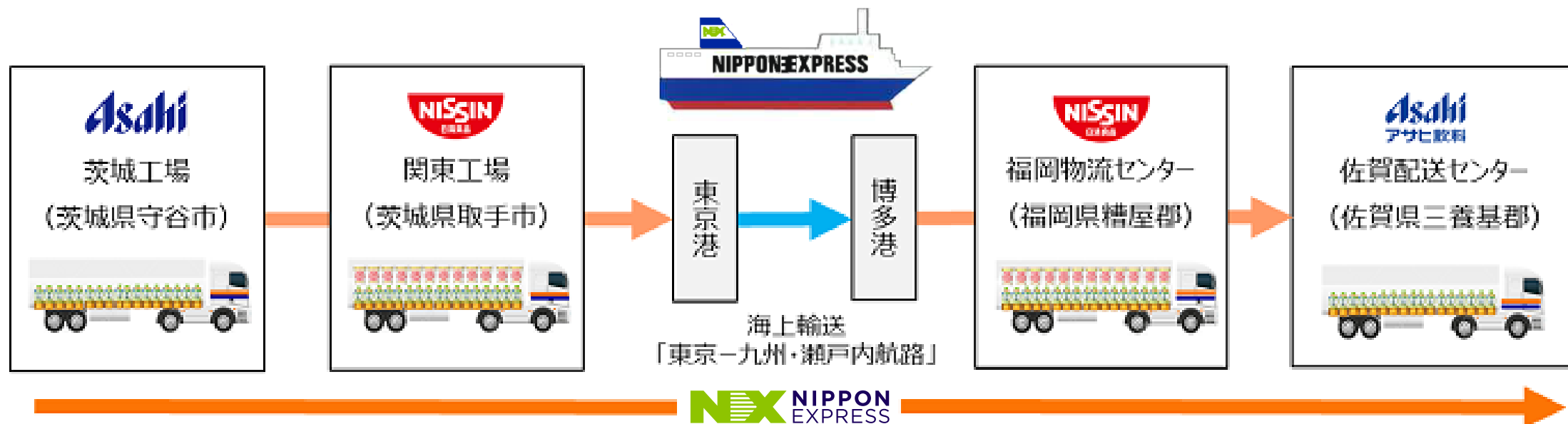
日本通運の取り組み事例（モーダルコンビネーション）

九州ルート&日本海ルート



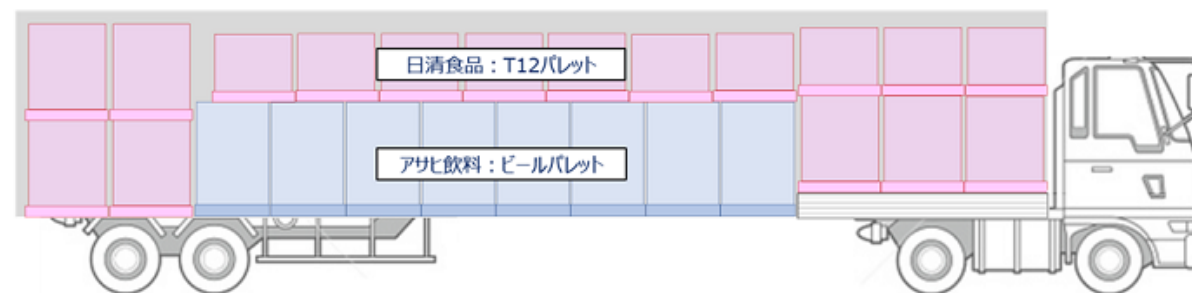
日本通運の取り組み事例（共同輸送）

NXでは、異なる業種の異なる品目での**共同輸送実績**があります

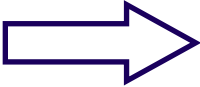


重量の軽いカップめんと重いビールを一緒に運ぶことで積載重量をオーバーすることなく積載率をあげて輸送しています

■ 荷台側面図



直接排出量削減に向けた課題

直接排出量を削減  ① 化石燃料を使用しない車両に変更
② 化石燃料を代替燃料に変更

	車 両		代替燃料	
	電気自動車	水素燃料電池車	混合燃料	バイオ燃料 (100%)
価格	△	××	×	××
インフラ・ 供給体制	△	×	××	××
その他	× 小型車のみ × 航続距離	× 水素価格	× 法規制 (上限5%)	× 軽油併用不可 (要洗浄)

基準活動量の設定について

基準活動量：輸送トンキロ

メリット	デメリット
公的な統計で使用 既存指標で、企業の負担感は小さい	実務上、あまり馴染みがない

事業活動範囲：貨物自動車運送事業

貨物自動車運送事業者が実施しているCO2排出量削減に係る取組について、事業類型等に関わらず、公平かつ適正に評価されるよう検討いただきたい



本資料のいかなる情報も、弊社株式の購入や売却等を勧誘するものではありません。
また、本資料に記載された意見や予測等は資料作成時点での弊社の判断であり、その情報の正確性を保証するものではなく、今後、予告無しに変更されることがあります。
万一、この情報に基づいて、こうむったいかなる損害についても、弊社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。
詳しくはこちらのサイトを御覧ください。<https://www.nittsu.co.jp/ir/disclosure/>